



音楽でつながる新たな自分、人との関わり方の提案

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

伊藤 知子 准教授

【研究分野】 音楽、音楽療法、音楽表現

【キーワード】 趣味、音楽鑑賞、演奏、自己覚知

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2111to>



研究概要

子どもから高齢者まで、また、さまざまな障害を抱える方々がそれぞれの環境の中で音楽を感じることでできる活動が行われています。

音楽には生理的作用・心理的作用・社会的作用があるとされていますが、人は無意識にこれらの作用を活かし音楽を楽しみ、人と繋がっています。

これまで高齢者の音楽療法の観点から音楽の力を療法に活用する方法について考えました。また、「子どもの音楽との出会い」は保育者自身の好奇心が子どもの「もっとやってみたい」につながり、子どもの成長に重要であると考え、保育者自身の保育者養成における音楽表現について研究してまいりました。

普段、あまり気にしない音楽との関わりの中に潜む音楽の力を再確認し、新たな自分と出会い、人と人との繋がる方法を探していきます。

講座テーマ紹介

- ・親子で楽しむ音楽表現
- ・音探しと音楽作り
- ・音の重ね方を考えよう
- ・音楽理論と照らし合わせながらの音楽鑑賞の楽しみ方
- ・演奏家や作曲家の人間味を感じ、その音楽の特徴を探してみよう
- ・演奏者による演奏の違いを感じ、音楽を扱う漫画の中の演奏を想像してみよう
- ・離れていても、一人でも大丈夫、アプリを利用して合奏（合唱）を楽しもう

アピールポイントなど

日頃、保育者養成を行う中で、子どもと音の出会い、子どもの音楽の出会いについて、学生たちと考えることで、自分自身が思いもよらなかった場所に新たな音や音楽との出会いが潜んでいることに気づくことがあります。

音楽的成長を促す方法を考えることで、自身の好奇心やこだわりにも気づくことがあります。先駆者や自身の研究の中で学んだ「音楽の力」や学生たちとの関わりの中で学んだ気づきをもとに、これまで趣味で楽しむ音楽を少しだけいつもと違う楽しみ方を提案します。

演奏家や作曲家、鑑賞する私たちの小さなこだわりや好奇心に気づき、共有し合うことで、自分では思いもよらなかった新たな気づきを見つけましょう。

音楽鑑賞の幅を広げることで不安神経症の治療をおこなったという事例もあります。

少しだけの変化がご自身の大きな変化につながります。生活の中に普通に存在する音楽との関わり方を少しだけ意識することで、今までの自分に気づき、より豊かな生活につながるといういいなと考えています。